

第2章 第2次計画期間における成果と課題

1 第2次計画期間における取り組み・成果

第2次計画期間における主な取り組みとその成果を以下に示します。

なお、計画の体系に沿った全ての取り組み・成果・課題の一覧につきましては、別途、資料編に掲載しています。

I 子どもの読書環境の整備・充実

- ▶ 図書館では、年齢に応じたおはなし会やかがくあそび、工作教室を実施しました。このほか、季節にあわせた特別行事を実施しました。(所沢図書館)
- ▶ 各保育園・幼稚園では、親子で楽しんでもらえるように、絵本の貸出や園だよりによる啓発、園での絵本の読み聞かせ等を実施しました。また、子どもが手に取りやすいよう、絵本の配置に工夫するなどしました。(保育園・幼稚園)
- ▶ 各小中学校では、朝読書やボランティアの協力による読み聞かせ等を実施したほか、環境整備ボランティアの協力により学校図書館や学級文庫の充実を図りました。(小学校・中学校)
- ▶ 各小中学校の学校図書館では、夏季休業中の貸出冊数を、通常より増やす、夏季休業中の図書館開館を実施する等、各校の状況に応じて長期休暇期間中の読書活動推進に努めました。(小学校・中学校)
- ▶ 全中学校に加え、平成23年度より順次、市内小学校に学校司書を配置しました。平成30年度現在では、中学校全15校、小学校23校(全32校中)に配置されています。(教育総務課・学校教育課)
- ▶ 児童館では、本の貸出やおすすめ本の紹介、おはなし会等を実施しました。(児童館)
- ▶ 各公民館が実施する子育てサロン・子育て講座等の際に、絵本の紹介や読み聞かせを実施しました。(公民館)
- ▶ 平成27年度から、防衛医科大学学校病院内学級「ひまわり」(並木小学校・中央中学校分教場)への図書館司書による出張おはなし会を開始しました。(所沢図書館)

- ▶ 平成28・30年度に、所沢第二幼稚園の保護者向け読み聞かせ講習会を行い、図書館司書を講師として派遣しました。(所沢図書館)
- ▶ 平成29年度から、北小学校ほかところへの図書館司書による出張おはなし会を開始しました。(所沢図書館)
- ▶ 平成29年1月に新設されたこどもと福祉の未来館2階のこども支援センター子育て支援事業において、平成29年度から図書館司書による出張おはなし会を開始しました。(所沢図書館)

写 真

II 学校・地域等の連携による推進体制の整備

- ▶ 市内小学校3学年全学級および希望する他学年の学級に対し、図書館司書による学級訪問（ブックトーク）を実施したほか、図書館見学・中学生職場体験活動の受け入れを実施しました。（所沢図書館）
- ▶ 小中学校・図書館間に連絡業務便を運行し、調べ学習・総合的な学習の支援や、学級文庫の充実のため、図書館による学校団体貸出を実施しました。また、学校業務連絡便の運行については、平成26年度から市内県立高等学校（3校）にも拡大しました。（所沢図書館・小中学校・高等学校）
- ▶ 平成26年度から、家庭教育学級への図書館職員を派遣するサービスのPRのため、家庭教育学級代表者会議へ、職員を派遣しました。（所沢図書館・社会教育課）
- ▶ 平成28年度より、市内医療機関（小児科・産婦人科）へ、図書館発行の「乳幼児の保護者向け図書館利用案内」と、リーフレット「赤ちゃんにえほんを」の配置を開始しました。また、平成29年度より、こども支援センター子育て支援事業での同利用案内およびリーフレットの配置を開始、また、保健センターでは、乳児家庭全戸訪問の際に、同利用案内の配布を開始しました。（所沢図書館・保健センター・こども支援課）
- ▶ 平成26年度より、保健センターにおけるBCG接種会場にて実施する「はじめての絵本・おもちゃコーナー」へ、図書館から読み聞かせボランティアとして職員の派遣を開始しました。（保健センター・所沢図書館）
- ▶ 所沢第二幼稚園では、平成28年度より近隣施設との協力による「森の図書館」を開始しました。（幼稚園・所沢図書館）
- ▶ 図書館と高等学校図書館との情報交換会を年1回実施しました。（所沢図書館・高等学校）
- ▶ 学校図書主任・学校図書館司書補助員研修会（平成27年度より学校司書研修会）を実施しました。図書館からは講師として職員を派遣しました。（学校教育課・所沢図書館）

- ▶ 図書館では、読み聞かせボランティア向けの手引きを作成・配布したほか、読み聞かせボランティア講座（平成26・28年度）、ストーリーテリング入門講座（平成27・29年度）等を実施し、ボランティアに対する支援を行いました。（所沢図書館）
- ▶ 関係機関との情報交換・連絡調整のため、「所沢市子どもの読書活動推進連絡会」を設置し、毎年定期的を開催しました。
（所沢図書館・学校教育課・経営企画課・財政課・公民館〔まちづくりセンター〕・こども支援課・児童館〔青少年課〕・幼稚園・保育園〔保育幼稚園課〕・保健センター〔健康づくり支援課〕・教育総務課・社会教育課・生涯学習推進センター・高等学校・特別支援学校・中学校・小学校）

写 真

Ⅲ 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

- ▶ 「子ども読書の日」の普及のため、図書館においてボランティアの協力によるおはなし会等の行事を実施しました。（所沢図書館）
- ▶ 公民館では、子育て講座・講演会を毎年実施し、保護者や地域の大人に対しての啓発を行いました。また、図書館では、毎年児童文学講演会を実施しました。（公民館・所沢図書館）
- ▶ 図書館では、年齢に応じたブックリストを毎年作成・配布し、紹介した本の展示を行いました。（所沢図書館）

写 真

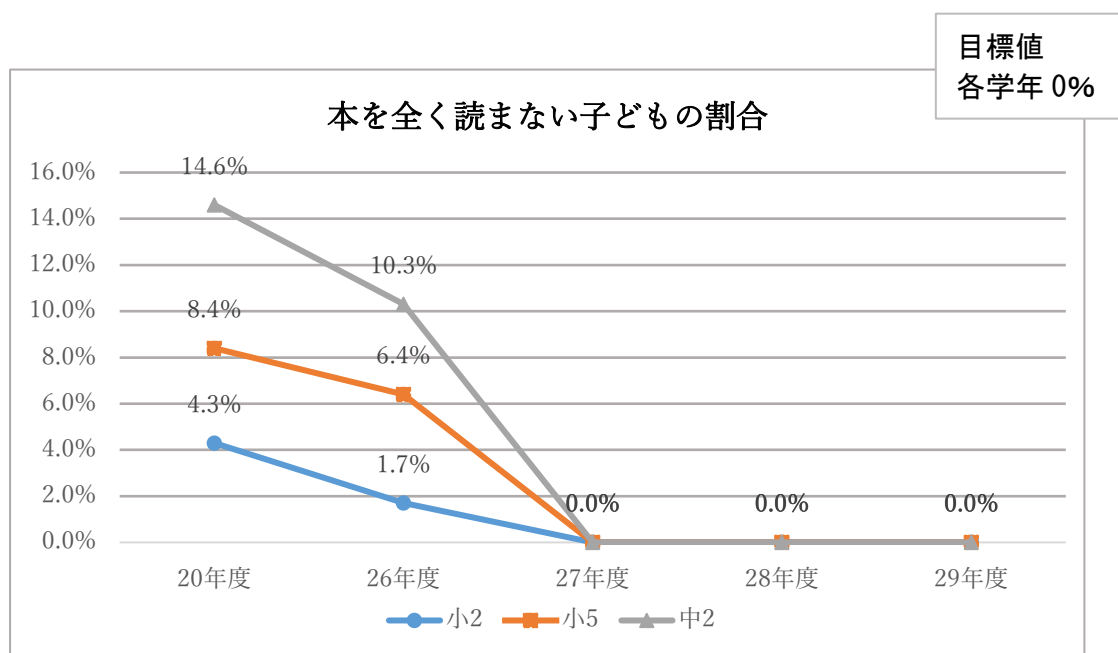
2 第2次計画成果目標達成状況

〇本を全く読まない子どもの割合

市内全校による朝読書の取り組みにより、平成27年度より全学年0%を達成しました。

但し、平成29年度における1か月に1冊の児童生徒の割合は、小学校2年生で9.1%、小学校5年生で15.5%、中学校2年生で31.6%となっています。

家庭や学校を中心に、さらに読書冊数を増やしていく取り組みを行う必要があります。



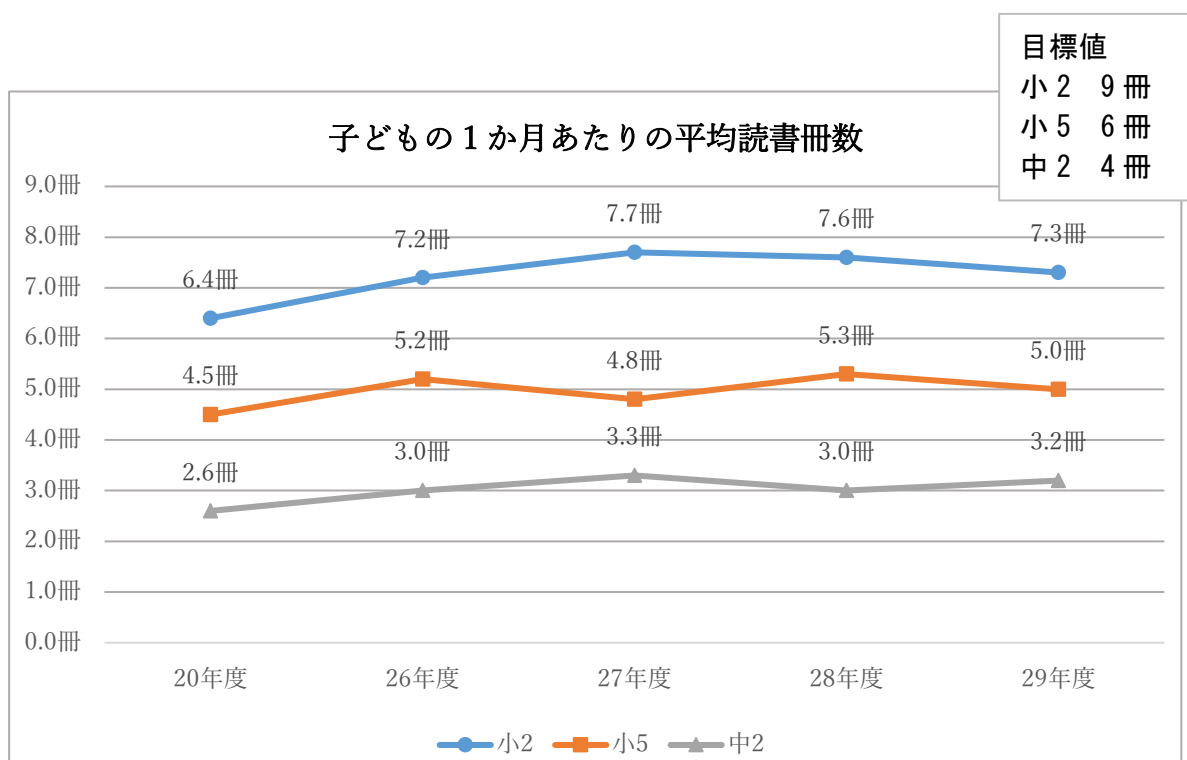
(所沢市子どもの読書アンケート調査より)

○子どもの1か月あたりの平均読書冊数

小学校2年生で7.2冊から7.3冊（目標達成率81%）、小学校5年生で5.2冊から5.0冊（同83%）、中学校2年生で3.0冊から3.2冊（同80%）と小学校2年生と中学校2年生で数値が改善されましたが、小学校5年生は、数値が下がりました。

月に10冊以上読む子が小学校2年生で43.6%、小学校5年生で18.0%、中学校2年生で7.8%と本をたくさん読む子がいる一方、ほとんど読まない子もいることが、目標達成できなかった要因になっていると考えられます。

これは、前計画においても指摘されていることであり、読書の楽しさやすばらしさを体験できる具体的な取り組みが必要です。



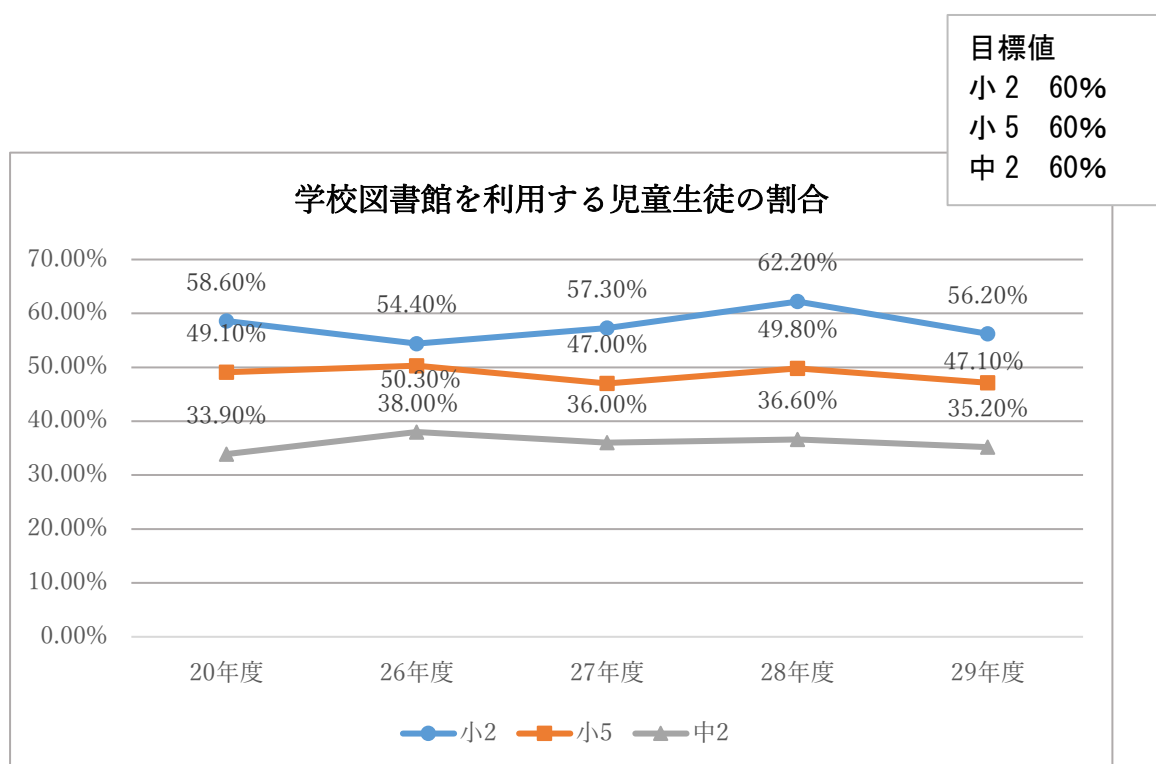
（所沢市子どもの読書アンケート調査より）

○学校図書館を利用する児童生徒の割合

小学校2年生は、54.4%から56.2%と数値が改善しましたが、小学校5年生では、50.3%から47.1%、中学校2年生では、38%から35.2%と数値が下がりました。

また、小学校2年生、小学校5年生、中学校2年生ともに目標値を達成することができませんでした。これは、児童の安全確保のため、放課後は速やかに下校させていることや、体力向上のため、休み時間は外遊びをするよう指導していることなどが影響していると考えられます。

各学校は、学校図書館利用向上のため、学校図書館の活用の推進と機能向上を進める必要があります。



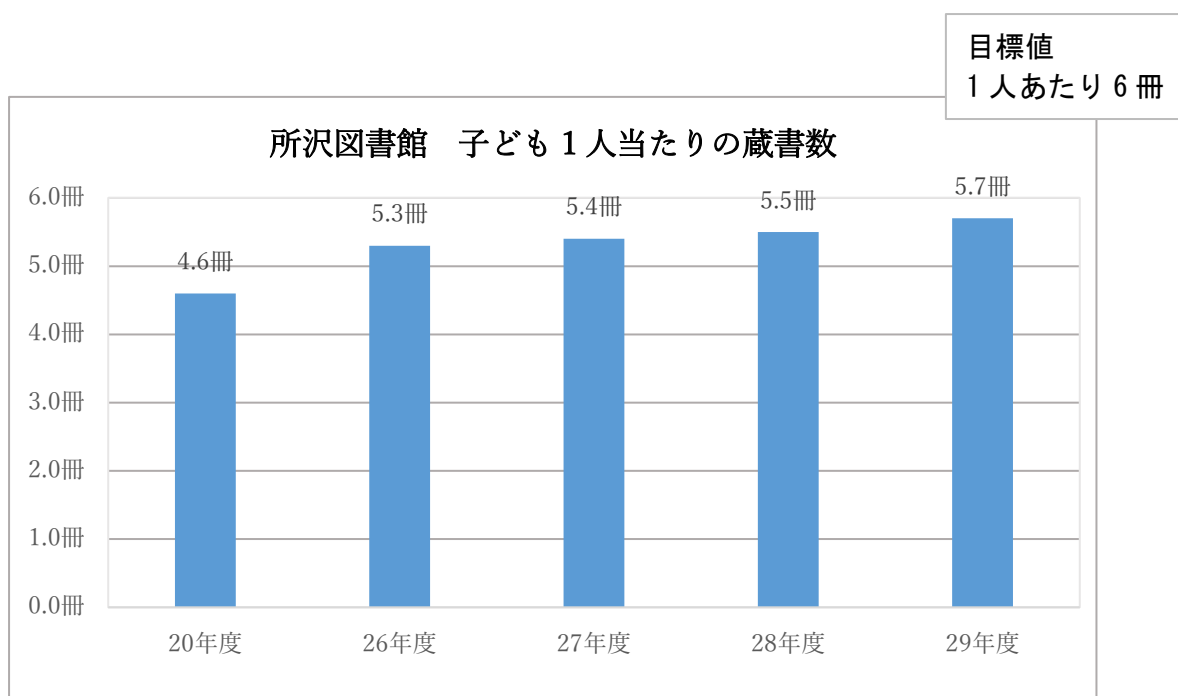
(所沢市子どもの読書アンケート調査より)

○子ども1人あたりの児童書数

計画的な購入により、所沢図書館蔵書の子ども1人あたりの児童書数は、5.3冊から5.7冊に増えました。

児童書の総蔵書数で見ても、290,163冊から309,808冊に増えています。

しかしながら、第2次計画においては目標達成に至らなかったため、第3次計画期間中の達成に向け、さらに充実に努める必要があります。



(所沢図書館統計より)

○学校図書館図書標準の達成率

学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、文部科学省が定める基準に対する達成率です。

小学校では100%を超えていますが、これは新規購入が進んでいる反面、古い図書の除籍が進んでいないことが要因として考えられます。

引き続き、図書の新規購入や除籍などの適切な蔵書管理が必要です。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	102.7%	103.4%	104.7%	100.6%
中学校	94.0%	94.2%	93.8%	95.2%

(学校図書蔵書数一覧(教育総務課調査)より)

イラスト

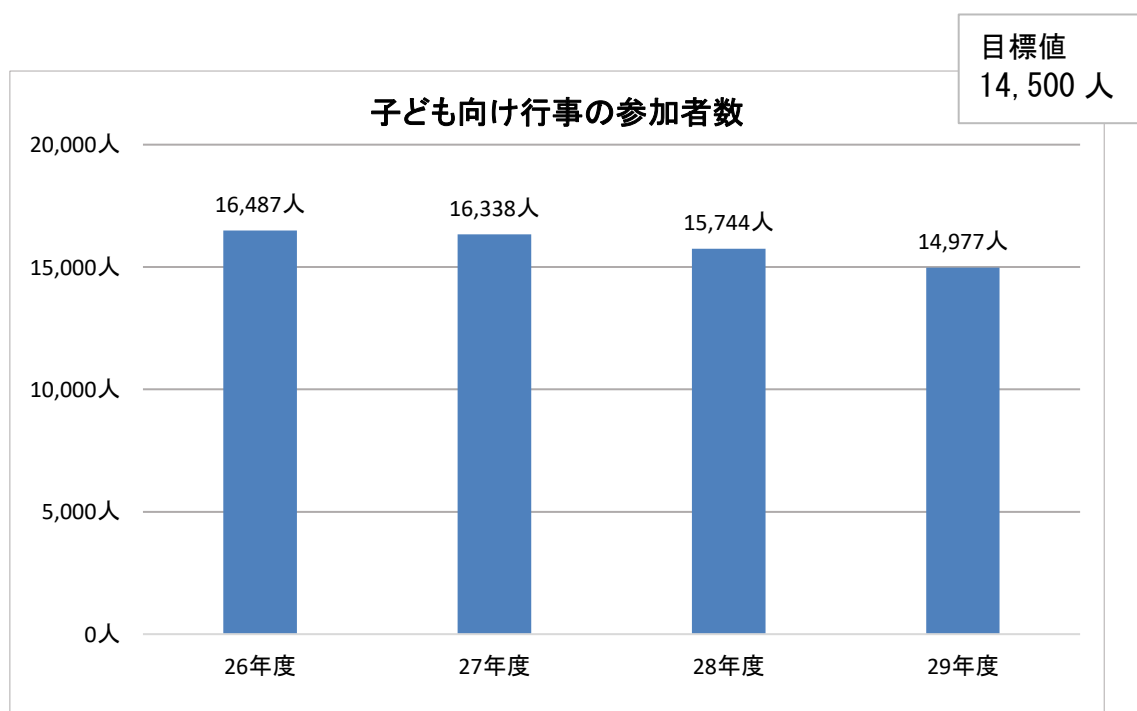
○子ども向け行事の参加者数

市立図書館が実施する子ども向け行事の参加者数です。

子ども向け行事の回数は例年通りですが、参加人数は減少傾向にあります。

目標値の14,500人は各年度で達成していますが、このまま減少すると目標値の達成が難しくなる可能性があります。

全体的な少子化の影響も考えられますが、減少傾向に歯止めをかけるための対応策の検討が必要です。

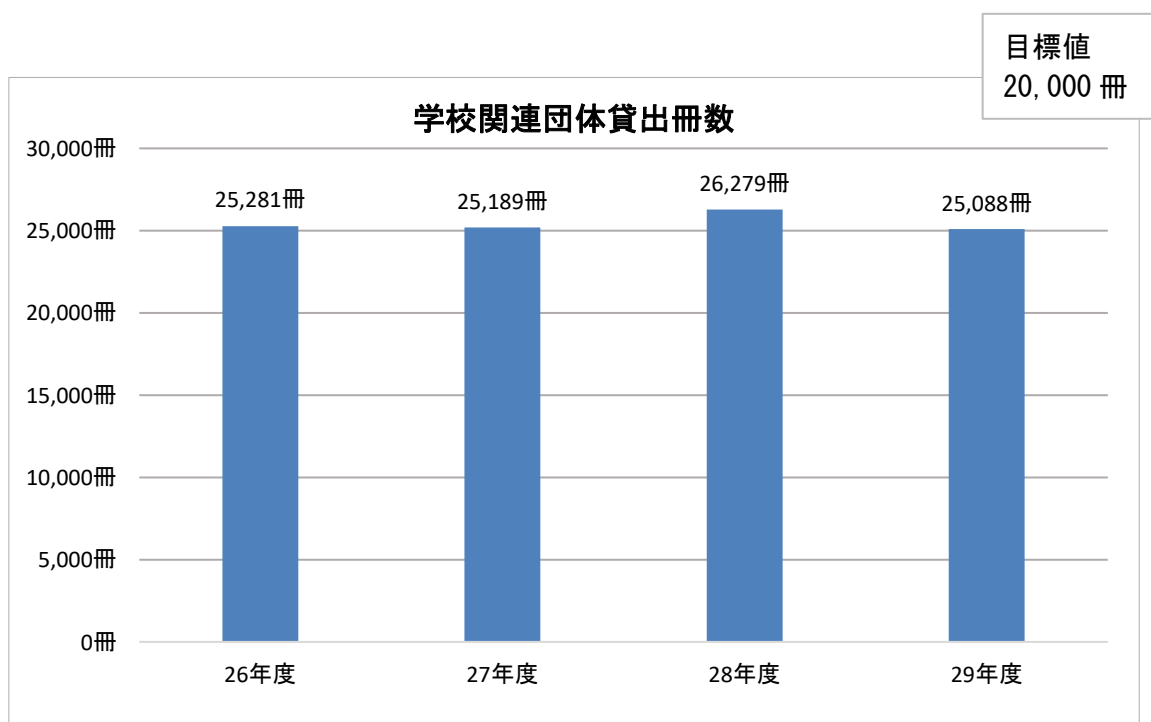


(所沢図書館統計より)

○学校関連の団体貸出冊数

市立図書館から学校関連団体（小中学校・幼稚園・保育園・高等学校・特別支援学校・児童館・児童クラブ・所沢児童相談所等）に貸出した図書等の数です。

貸出冊数はおおむね横ばいで、各年度で目標値も達成できています。引き続き、各施設等での読書活動が活発になるよう事業を進める必要があります。



(所沢図書館統計より)

3 第2次計画期間における課題

I 子どもの読書環境の整備・充実

- ▶ 各小中学校の学校図書館や学級文庫の蔵書数がまだ十分ではありません。学校図書館の利用促進に向け、除籍・購入等の適切な蔵書管理による整備を進め、魅力ある蔵書をさらに豊富に揃えていくことが重要です。
- ▶ 子どもの本のコーナーを設けている施設のうち、スペース等の問題により、読書環境を安定して作れていない施設があります。また、限られた予算内で、新刊図書を十分に購入することが困難なため、各施設の子どもの本のコーナーの図書は古くなったものが多く、子どもたちが読みたいと思う本に出会いにくい状況です。
- ▶ 学校により、学校図書館の蔵書管理体制に差がある状況です。学校司書を市内小学校の全校に配置し、蔵書管理体制に加え、学校図書館の利用促進などの活動につながるよう努めることが重要です。
- ▶ 学校ごとに作成している、図書館を活用するための計画に基づいて、学校図書館を活用した取り組みをさらに充実させていく必要があります。

II 学校・地域等の連携による推進体制の整備

- ▶ 子どもの読書活動に関する地域団体・ボランティアのネットワーク構築に関して、情報提供の状況など現状が把握できていない部分があります。関係機関が協力し、さらにネットワーク体制を充実していく必要があります。
- ▶ 所沢市子どもの読書アンケート調査によると、年齢が上がるにつれて、本を読む冊数や、図書館を利用する頻度が減少する傾向にあり、特に、興味や関心が広がる中学生・高校生世代において「読書離れ」が顕著になっています。しかし、心身の成長が著しいこの世代は、読書に対する興味を持つことができれば、自発的に豊かな読書体験を積むことができる年代でもあります。中学校・高等学校等との連携を密にしながら、どのように中学生・高校生世代の読書活動を支援していくかが課題となっています。

Ⅲ 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

- ▶ 乳幼児健康診査・母親学級等、さまざまな機会を利用して保護者への啓発に努めていますが、価値観が多様化する現代社会においては、読書習慣が身につけている子とついていない子の差が大きくなっています。いかにより多くの保護者に、子どもの読書活動の重要性を理解してもらうかが課題となっています。
- ▶ 子どもたちの成長には、幼稚園・保育園、学校、家庭以外にも、公民館、児童館、図書館など、さまざまな機関が関わっています。これら子どもに関わる各機関や関係者に対し、子どもの読書活動についての理解や関心をさらに普及・啓発していくことが必要です。

写 真